

## 特別活動・学校保健活動として展開された「岐阜県の小学校における『歯の塔』」の成立・普及の経過と今日的状況

齋 藤 治 俊

### The Birth, Spread and Present Use of “Teeth Monuments” at Elementary Schools in Gifu Prefecture developed as School Health Activity.

Harutoshi Saito

#### Summary

The tradition of placing infant teeth under a monument is a phenomenon unique to Gifu Prefecture in Japan. It has been carried out in 21 elementary schools throughout the prefecture. The process involves placing discarded infant teeth under a monument, the purpose of which is to pray and hope for not only healthy teeth, but also physical health in general. It is a practice that is carried out by the students and staff at these elementary schools.

This tradition occurs only in the Gifu region, and has been going on for a number of years. However, due to the passage of time, the origins and purpose of this practice has largely been forgotten. People, including the teachers and staff at these schools, have little or no idea as to why this practice continues and the significance of the construction of the teeth monuments. It is a worrying trend and one that needs to be arrested if a regional tradition is to survive in the future. It is for this reason that I have conducted a study into this process.

**Key words** : infant teeth, school dental doctor, dental studies,  
Elementary school, Gifu City, teeth monument

#### I はじめに

岐阜県内のいくつかの小学校には、玄関脇あるいは運動場脇に「歯の塔」と呼ばれる建造物（モニュメント）が設置されている。その型や大きさは様々であるが、多くは「大白歯」の形状をし、1～2メートルの高さで、コンクリート製である。（図1）

台座の部分は収納庫になっており、扉を開けて児童の「抜け落ちた乳歯」を納歯することができる。（図2）

この建造物は単なるモニュメントではなく、児童が成長過程において脱落した自分の乳歯に思いをはせ、永久歯を大切にしようとする決意を固めるため、脱落した乳歯をその建造物に納める「塚」であり、その活動を通して、児童に歯科保健を指導しようとする活動を伴っている。

これらの「歯の塔」の建造は、今回の調査によって、昭和44年に岐阜市立本荘小学校に建造さ



図1 岐阜市立方県小学校の「歯の塔」  
(正面) 撮影は筆者



図2 岐阜市立方県小学校の「歯の塔」  
(裏面) 撮影は筆者

れたのが最初であり、その後、昭和50年代にかけて岐阜県内の21小学校に建造されたことが確認され、40年近くを経過した今日でも、「歯の塔」の建造物（モニュメント）はそのほとんどが現存し、いくつかの小学校では、納歯式のイベントも継続されていることが判明した。

しかし、この「歯の塔」について、その成立の経過や設立の意図や目的は、長い歳月の経過の中で、今日の学校関係者には必ずしもその理解が引き継がれていない。学校関係者に話を聞くと、「ずっと昔からあります」「小学生の抜け落ちた乳歯を記念に納めています」「虫歯予防教育の研究をした頃、活動の一環として建設したのでしょうか」等、「歯の塔」建造の経過やその意図は判然としていない。社会環境や学校環境の変化、歯科保健に関する諸事情の変化、また教育課程の変遷等によって、特別活動や学校行事の長期間にわたる継続的な実施には限界があり、教職員の世代交代や転勤もあり、それまで展開されていた教育活動が変更されたり、縮小されたり、または廃止されることはやむを得ない。

しかし、小学校に「歯の塔」を建造し、それを中心として歯科保健活動を展開する教育実践は、全国を見ても類似例がなく、岐阜県だけに見られる学校保健実践である。この「特別活動・学校保健活動として展開されてきた『歯の塔』を中心とした歯科保健活動」の成立・普及の経過そして今日の状況を調査し、解明することは岐阜県における学校保健活動を理解する上で意義深い。岐阜県内において、昭和40～50年代に建造された「歯の塔」を中心とした学校保健活動の概要や経過を、記録や現地調査に基づき、確認しておきたい。

小学校における「むし歯予防の教育」はその目的に鑑み、長い間実施され続けてきた。そして「むし歯予防の教育」は、今日においても、保健指導の主要なテーマとして展開されている。岐阜県のいくつかの小学校で学校保健活動として、実施され続けてきた「歯の塔」実践は「抜け落ちた児童の乳歯を『歯の塔』に納め、乳歯に感謝すると共に、歯の健康について考える活動」として、また父母・地域の人々と一緒に展開された興味深い内容を含んだ学校保健行事である。

## Ⅱ 調査目的及び調査方法

### 1 調査目的

- (1) 岐阜県内の小学校に現存する「歯の塔」の実情を調査する。
- (2) 学校における「歯の塔」事業は、いつ、どのような目的や願いで始まったのか、その成立・普及の経過を解明する。
- (3) 「歯の塔」に関連する学校保健活動は、今日どのように展開されているのか、を解明したい。  
また、特別活動・学校保健活動として今日まで継続されている要因を検討する。  
これらを調査、解明することによって、今後の学校保健行事を発展的・継続的に展開する上で  
の示唆が得られるものと思われる。

### 2 調査方法

- (1) 「歯の塔」に関連する文献研究
- (2) 「歯の塔」に関連した組織や機関の記録資料の発掘と分析
- (3) 「歯の塔」を建造した小学校への訪問調査等、訪問調査等は平成21年5月～11月に実施した。
- (4) 「歯の塔」の建造に参画した方々又は関係者への聞き取り調査  
平成22年2月5日（金） 故蒲生勝己氏の御子息・蒲生篤司氏（現・ガモウ歯科院長）へ  
の聞き取り調査  
平成22年6月4日（金） 岐阜市立方県小学校長、同養護教諭への聞き取り調査  
平成22年7月30日（金） 碧南市立新川小学校へ訪問、同校教頭への聞き取り調査

## Ⅲ 調査内容

### (1) 「歯の塔」「歯の塚」等について

「歯の塔」（あるいは「歯の塚」「健歯の塔」「愛歯の塔」等と呼び名は様々である）についての調査は加藤増夫氏によってなされている。「加藤増夫著『歯の塚探訪』医歯薬出版 1988年」である。「歯の塔」「歯の塚」について調査した文献は、筆者が知る限りでは、加藤氏の著作以外には見当たらない。しかし、「加藤増夫著『歯の塚探訪』」はすでに廃版であり、全国の公立図書館・大学図書館でも数冊が蔵書されているだけであり、入手は極めて困難である。筆者は、本研究の調査過程において、全く偶然に入手することができた。このような事情があるので、加藤氏の著作に基づき「歯の塔」「歯の塚」について、以下、簡単に紹介する。

加藤氏は、全国に散見される「歯の塚」の意義や役割を次のように位置付けている。

「歯への哀愁、愛着、敬意を私共先輩は抜歯歯牙の供養奉讃を願って個人で、歯科医師会で、あるいは脱落乳歯を学校保健の立場で、更に慕情尊敬から宗教的立場で後世に歯の塚が残された」（前掲書「はじめに」）

※加藤氏は現存する47基の「歯の塔」「歯の塚」等を紹介しているが、それぞれに刻されている名称は多彩である。

「塚」……「歯の塚」「歯の供養塚」「抜歯塚」「歯塚」「萬人歯骨塚」等である。

「碑」……「歯之碑」「歯の供養碑」「歯霊碑」「歯魂碑」「歯恩の碑」等である。

「塔」……「歯の塔」「歯の供養塔」「歯霊供養塔」等である。

学校に建造された建造物（モニュメント）の多くは「歯の塔」の名称が使われているが、「愛

歯の塔」「健歯の塔」「健歯の碑」「『歯を大切に作る心』の碑」の名称もみられる。それは、個人や歯科医師会が「供養」のために建立したものとは異なり、「歯に感謝する心の育成」「歯を大切に作る心の育成」を目的にしている名称となっている。

加藤氏によると、全国にある「歯の塔」等の建造物は以下である。

① 個人が建立したもの …… 8基

「個人」とは全員が「歯科医師」であり、治療活動の中で抜歯した「歯」を供養するために、歯科医師個人が建造したものである。

② 歯科医師会で建立したもの …… 5基

県歯科医師会、市歯科医師会、郡歯科医師会等のリーダー的立場の方の発案によって、建立されたものであり、供養祭等が定期的に行われている場合が多い。

③ 学校歯科保健関係で建立したもの …… 24基

岐阜県内に建造された21基が大半であるが、そのモデルとなった「愛知県碧南市立新川小学校……愛歯の塔」ほか2基がある。

④ 仏教的建立によるもの …… 2基

- ・親鸞聖人の白歯を祭ってある「京都府下久世郡御山町 永福寺」
- ・スリランカの仏歯寺に倣って、親鸞聖人700回御遠忌記念で建立された「京都市上京区 長徳寺」

⑤ その他の建立によるもの …… 7基

江戸時代等に建立された「碑」「塚」等である。

## (2) 岐阜県内の小学校に現存する「歯の塔」の現状

加藤氏の前掲書によると、学校歯科保健関係で建立した「歯の塔」等は24基がある。このうち、岐阜県には21基が存在するとされている。岐阜県に設置されている21基の現状の調査を行った。調査は「歯の塔」設置小学校に直接訪問する方法を中心としながらも、一部電話等による聞き取り調査を活用した。この調査により、以下の現状が判明した。

「歯の塔」等が現存する小学校は18校であった。3校は「校舎の移転」「廃校」によって撤去されている。「納歯」の活動を学校行事として継続している小学校は5校であった。建造当初の意図に基づく保健活動を、長期間にわたり継続することの難しさが伺われる。なぜ継続できなかったのかを検討することは関心のあるところであるが、その調査は困難である。

ほとんどの小学校では、年度末または年度当初に、その年度の教育課程を編成する。特別活動や学校保健の計画も同時に決定される。「歯の塔」等に関わる実施計画（廃止や縮小も含めて）も同様である。これらの決定については、「学習指導要領を含めた教育施策の動向」「各学校の教育方針との整合性」「児童や保護者の実態とニーズ」「前年度の活動評価」「教職員の負担」等の要因が影響を与える。「納歯」の活動を継続している小学校は5校に「減少」してきた要因について、筆者は、「児童のう歯罹患率の減少及び治療率の向上」「活動の意義について、教職員の理解が風化し、負担感の増大」があると推察する。このことを実証しようとするためには、廃止を決定した当時の議事録を調査し、議論の論点を調査する必要があるが、ほとんどの小学校では、議事録を作成する慣習はない。また、歳月を経過した今日、その時の議論を聞き取ることは難しい。

そこで、今回は今日においても、初期の形を残して継続実施している「岐阜市立方県小学校」

岐阜県内の小学校にある（あった）「歯の塔」の現状（平成21年10月）

小学校名	現存の有無	納歯イベントの有無	その他
岐阜市立 本荘小学校	有	なし	
岐阜市立 方県小学校	有	有	
高山市立 西小学校	有	なし	
高山市立 江名子小学校	有	有	「健歯の塔」
高山市立 北小学校	有	なし	
池田町立 宮地小学校	有	なし	
池田町立 温知小学校	有	なし	
池田町立 池田小学校	有	なし	
池田町立 八幡小学校	有	なし	
大野町立 西小学校	有	なし	
上石津町立 多良小学校	なし	なし	校舎移転
海津市立 石津小学校	有	有	
郡上市立 小川小学校	有	なし	
高山市立 荘川小学校	有	有	
揖斐川町立 小島小学校	有	なし	
美濃市立 立花小学校	なし	なし	廃校
瑞穂市立 穂積小学校	有	有	
多治見市立 滝呂小学校	なし	なし	校舎移転
学校組合立 養基小学校	有	なし	所在地池田町
美濃加茂市立 加茂野小学校	有	なし	「健歯の塔」
大野町立 中小学校	有	なし	

の実情（困難さ、改善事項等）を調査検討することで、継続のために必要な条件や要因の推察を行った。このことについては(7)で詳述する。

### (3) 学校における「歯の塔」事業は、いつ、どのような目的、願いで始まったのか。

#### 岐阜県の小学校における「歯の塔」の成立及び普及の経過

岐阜県内の各小学校の「歯の塔」は昭和40～50年代に建造されている。その時期の学校保健関係の資料調査の結果、「歯の塔」建造の契機と思われる有力な資料に到達した。それは「岐阜県学校歯科医師会副会長（岐阜市本荘小学校歯科校医）・蒲生勝己『全国の小学校に歯の塔を是非建設しましょう』……岐阜市学校保健会『たくましい子らをめざして……20周年記念号』昭和47年2月15日刊行）」である。そこで、蒲生氏は以下のような提唱を行っている。

「『全国の小学校に歯の塔を是非建設しましょう』……この標題と同様なことを昭和44年9月に大津市にて開催された第33回全国学校歯科医大会のシンポジウムにて発表した、今回機会を得たので、地元のこの会誌を通じて私の呼びかけを全市の小学校、学校保健関係者の皆様にお伝えしたいと思う。……学校歯科は保健教育であるから、昔から学童の自主的な理解と



自覚が大切だといわれ、また、このようにするために、いろいろな実践に必要な、動機付けが工夫されてきている。この点……私は学童自体の動機付けとして……歯は自分の分身であるという歯に対する愛情を持たすのが、一番よいのではないかと考えた。……自分自身の心から湧き出るものが一番尊いし、これが自覚でもあるわけである。まあこの様に、いろいろ考えた結果、次のような案が浮かんできた。それは小学校に歯の塔（塚）を建設してみてもどうかということである。……私の案はこの歯の塚を小学校内に建てて、ちょうど乳歯と永久歯の交換期による脱落、または抜歯乳歯、不幸にも早期う蝕により抜去した少数の永久歯をこの塔の中に毎年納入してはと、これなら、学童全員在学中に必ず乳歯の脱落はあるわけであるから、全学童の歯牙がこの塔（塚）に入れられる。これこそ普遍かつ同条件の動機づけではないだろうか。……」と、歯の塔建設の意義、目的を述べている。

蒲生氏は、この提案に先んじて、昭和44年6月に、自らが学校歯科医をしている岐阜市立本荘小学校に「歯の塔」を建造した。……このことについては(4)にて詳述する。……そして、その建造の経験を含め、「歯の塔」建造の教育的意義を主張した。

「第33回全国学校歯科医師大会（昭和44年）」ではシンポジストの1人として「小学校に歯の塚（塔）を建設する推進運動について」提案を行った。（当時・岐阜県学校歯科医会専務理事）

日本学校歯科医会会誌第16号（昭和45年）には、「大会記」の中で、蒲生氏の提案の要旨が、次のように紹介されている。

「学校歯科保健教育とは実践教育であり、そのためには動機付けが必要であり、その1つとして『歯の塚（塔）』の建設とその効果を紹介する。このことは学童に歯に興味と関心を抱かせ、子供達の夢を育て『心につながること』になると考え、脱落した乳歯や、抜去した乳歯、永久歯を学校内に建立した塔の中に納入保管して、道徳的、衛生的、情操教育の一環と、学校歯科の向上に資したいと考えている。この運動の一層の推進と全国的な展開を望むものである。」

また、当時の岐阜市で勤務していた養護教諭の記憶では、各種の学校保健研修会、養護教諭研究会等の場において、蒲生氏は「歯の塔」の教育的意義を熱心に語っていたとのことである。

蒲生氏は「歯の塔」提唱の「目的」「願い」を、岐阜市立本荘小学校「開校100周年記念誌」で、小学生向けに、以下のように述べている。

「歯は人間だれでもが公平にみんなが持っているものです。歯は乳歯から永久歯に生えかわります。生まれてから、わたしの生長に役立ってくれた乳歯よごろうさま、永久歯はよく手入れして、だいじにしましょう。ぬけたみんなの歯をいれる歯の塔です。」

本荘小のみんなが、先輩も後輩も自分の身体の分身である歯を残しておくことによって、いつまでも本荘小を忘れぬようにしましょう。学校と卒業生をつなぐたった一つの記念碑となることでしょう。」

これらの蒲生氏の提唱を受け、岐阜市立本荘小学校（昭和44年6月）に続き、上石津町立多良小学校（昭和45年6月）、高山市立西小学校（昭和46年6月）、岐阜市立方県小学校（昭和46年12月）に、「歯の塔」が建造された。そして、岐阜県内の小学校21校に「歯の塔」が建造されたのである。

#### (4) 岐阜県の小学校における最初の「歯の塔」……岐阜市立本荘小学校「歯の塔」

岐阜県の小学校における最初の「歯の塔」は、昭和44年6月4日、岐阜市立本荘小学校に建造

された。(図3) 本荘小学校の「歯の塔」建設の経緯は、前述した「岐阜市学校保健会 20周年記念号」……『全国の小学校に歯の塔を是非建設しましょう』(蒲生勝己)に記載されている。

「……四月新学期学童検診に私が勤務する岐阜市立本荘小学校に行きまして早速この案を養護教諭に話しましたらそれは面白いと大賛成で、次いで校長にもプランを話しました。勿論これは名案だと、直ちに職員会議に提案されて承認、続いて生徒会に、又PTA 役員会にも連絡されて是非実行しようということになりました。私はデザイン等は全部学校側に委すことにしました所、学校では教頭先生、図工担任、保健主事の先生等数名の先生とPTA で、この様な築造に造詣深い方も参加して戴いて設計が出来上り、やはりPTA の業者の方が奉仕的な作業で施行して戴きました。又全校学童より名称を募集した所“歯の塔”が一番多かったのがこれに決定し、これをやはりPTAの方に線香焼といって大変凝った文字で歯の塔の名称板を作って戴きました。この様に職員、PTA等の協力と奉仕により6月4日の虫歯予防デーと昔からいわれている、歯の衛生週間に間に合うように竣工しました。写真の如く全高170cm、白い歯を造形した立派なもので、学童全員参加して、生徒会長が除幕して早速学童が持って来た第一回の歯56本をこの塔の裏の鉄板の扉をあけて納入しました(この土台は空洞で中に歯を入れる様に設計してある)」

この「歯の塔」の建設費用は約50,000円であり、蒲生勝己氏の寄贈であったことが、本荘小学校の「歯の塔資料パンフレット」に記録されている。本荘小学校では「昭和44年度(前年度から集めてあった歯を含め)に717本、45年度に457本、46年度に556本、47年度456本」が納歯された。(「本荘小学校・開校100周年誌」より)



図3 岐阜市立本荘小学校の「歯の塔」と筆者



図4 碧南市立新川小学校の「愛歯の塔」  
(撮影は筆者)

#### (5) 岐阜県の「歯の塔」のモデルとなった「愛歯の塔」(愛知県碧南市立新川小学校)

岐阜県における「歯の塔」建設を提唱した蒲生勝己氏の前掲文「全国の小学校に歯の塔を是非建設しましょう」に、下記の一文がある。

「……歯の塚は昔から全国に少数であるが、熱心な歯科医または歯科医師会などにより、塚、

碑、塔と命名されて、歯の衛生週間の行事の一つとして、診療の際、抜歯した歯牙の供養が主な目的で、かつ歯科衛生を社会的にも呼びかける式のものが多いようである。この中で学校関係として私が知っている範囲では、近隣のN先生が担当の小学校内に歯の塚を建てられた事は承知していた、が、この塚には歯を毎年入れるのではなくて、単に塚のみと聞いていた。」

蒲生勝己氏が紹介し、岐阜県本荘小学校の「歯の塔」のモデルとなった「歯の塚」についての調査結果は以下のようなものである。

蒲生氏が紹介している上記文中の「……近隣のN先生……」については、遠方の熊本県歯科医師会広報委員会が主に熊本県歯科医師会会員向けに毎月発行している広報紙『熊歯会報』に関連記事が記載されていた。下記の記事を執筆した栃原義人氏は熊本県在住ではあったが、日本学校歯科医会の要職を務め全国的に活躍されていたと思われる。当時は「日本学校歯科医会会誌」の発行責任者でもあった。

栃原義人「碧南市の『愛歯の塔』を訪ねて」……熊歯会報／196号／昭和47年7月発行……である。以下、関連箇所を紹介する。

「愛知県碧南市立新川小学校の『愛歯の塔』は、男の子が大きな1本の下顎6歳臼歯を抱いている石像で、同校学校歯科医長坂甫氏の奇想により、昭和34年6月4日、よい子たちが歯を大切にしようとの情操教育への願いをこめて建てられたものである。除幕式には、時の碧南市長中村庄太郎氏も臨席し盛大に行われたという。学校内に建てられた歯の塔として恐らくこれが日本最初のものであろう。……」

「……池田清一校長と面談……本校ではひと頃、校内歯科治療を盛んにやった時代があったと言う。『愛歯の塔』の着想もそんなところから芽生えたものであろう。石像は、碧南市在住の日展会員加藤潮光氏作である。三角柱形の塔身の裏面下方に指を入れ得るほどの横穴が作られていて、よい子たちは、抜けた乳歯をこの穴から各自適宜に納めることになっている。」

蒲生氏が紹介している「……近隣のN先生……」とは「……愛知県の長坂甫先生……」であろうことが推定される。

筆者は、碧南市立新川小学校を訪問し、「愛歯の塔」取材した。(図4)

「愛歯の塔」の裏面プレートには「昭和34年6月4日建」と記されており、岐阜市立本荘小学校の「歯の塔」建造より、10年前の建造であることが確認できた。また「寄贈者として、校長坂甫・校医 加藤純司・日展作家 加藤潮光・日展作家 加藤知彦」の4名が記されていた。

岐阜市立本荘小学校に「歯の塔」を建造し、「歯の塔」建造を提唱した「蒲生勝己」氏と碧南市立新川小学校に「愛歯の塔」を建造した「長坂甫」氏との関係は不明である。

新川小学校の「愛歯の塔」の取材により、「納歯」について以下のことが判明した。

「愛歯の塔」の「塔身の裏面下方には一辺7cmほどの正方形の横穴があり」子どもたちは、抜け落ちた乳歯を納めることができるようになっている。しかし、岐阜県の小学校にある「歯の塔」とは構造的に大きな違いがあり、「納歯式」等の「歯科衛生活動の行事」への発展は想定されていなかったように思われる。

福岡県大木町立木佐木小学校の「愛歯の塔」

栃原義人「碧南市の『愛歯の塔』を訪ねて……熊歯会報194号」には、更に興味深い報告が記されている。

「碧南市に『愛歯の塔』を訪ねた際、雑談の中で……この愛歯の塔には、(除幕式に臨席して



いた)、時の市長中村庄太郎氏が深く感銘し、自分もこんな教育的意義あるものを郷土の出身小学校へ寄付したいと漏らされていたので、恐らく福岡県の柳川あたりに同型がありそうだ……との話だった。私は熊本に帰宅早々……この件を福岡県と同僚加藤栄君に糺した。ところが木佐木小学校に現存するとの朗報が直ぐ返って来たのでビックリ、早速これを確認すべく訪ねる仕儀と相成った。……江口教頭の案内で体育館前に建っている『愛歯の塔』を参観する。碧南市の愛歯の塔と全く同型である。裏面にはめ込んだ青銅版リリーフには寄贈者 愛知県碧南市長 中村庄太郎 昭和35年1月1日 製作者 日展所属 日展会員 加藤潮光と記されてある。」との記述である。

筆者は、上記のことを確認すべく、福岡県大木町立木佐木小学校長の田中光夫先生に調査を依頼した。以下のような返信をいただいた。

「『愛歯の塔』は、写真のように正面玄関の横に設置されています。今でも子ども達は、歯が抜けたときなど、表の子どもが抱えている歯の形の所に入れたり、裏面の下にある穴に入れたりしているようです。約25年前、私が本校に、勤めていたときも『学校で抜けたときは、その塔に、入れておきなさい。』といったような気がします。今ではそんなことも言わないようですが、本校出身の保護者が言い聞かせていることと思います。」(田中光夫校長)(図5、6)

これらの「愛歯の塔」は、岐阜県内に建造された「歯の塔」とは直接の繋がりはないものの、「歯の塔」建造構想のヒントになったモニュメントであったことを記述しておきたい。



図5 福岡県大木町木佐木小学校の  
「愛歯の塔」(正面)  
(田中光夫校長の撮影による)



図6 同左「愛歯の塔」(裏面)  
(田中光夫校長の撮影による)

#### (6) 「歯の塔」に関連する、学校保健行事の実践状況(2009年度における実施状況)

岐阜県内の小学校には、現在18基の「歯の塔」が現存していることを確認した。更に、「納歯式」等の学校保健行事を、今日もなお継続して実施している小学校は、以下の5校であることが判明した。

- ① 岐阜市立方県小学校    ② 高山市立江名子小学校    ③ 海津市立石津小学校  
④ 高山市立荘川小学校    ⑤ 瑞穂市立穂積小学校

「歯の塔」建設から30～40年の歳月が経過する中で、歯科保健の指導に関わる、社会環境や教育環境は大きく変化している。小学生のむし歯（う歯）の実態も改善された。

文部科学省の学校保健統計調査の結果では、

○『『小学生のむし歯（う歯）の者の割合』は、昭和54年（30年前）には94.78%であったが、平成21年には61.79%』と低下した。

○『『小学生で未処置歯のある者の割合』は、昭和54年（30年前）には77.04%であったが、平成21年には31.47%』と激減している。

学校現場の歯科保健についての活動内容が減少していることは、このことが関連している。

しかし、「小学校の疾病・異常の罹患率」は、2番目に多い「裸眼視力1.0未満の者……29.71%」を大きく上回っており、今なお第1位である。今日においても、大きな健康課題である。全国のほとんどの小学校では、6月を中心にして「歯科保健の指導」が実施されている。

「歯の塔」を建造し、「納歯活動」の実施していた小学校の中で、かなりの小学校において、歳月の経過と共に、その活動が停止・消滅した背景や要因を検討することは、保健活動・保健行事を展開する上で考慮しなくてはならない。

「納歯活動」を停止・消滅した学校の背景や要因を個々について調査することは難しい。

（背景や要因についての筆者の推察を（2）でにおいて記述した。）

そこで、「納歯活動」を継続している学校の実情を調査することによって、保健活動・保健行事を展開する要因を検討した。

#### （7）「岐阜市立方県小学校における『歯科保健指導』の実践」とその考察

岐阜市立方県小学校の「歯の塔」は、昭和46年12月に建造された。岐阜市立本荘小学校より2年遅れた建造ではあるが、岐阜県内では4番目の建造である。

方県小学校では、以下のような実践が展開されており、毎年6月の「歯と口の健康教育強化月間」の取り組みの中で「納歯式」の保健行事を実施している。（図7・8）

平成21年度の取り組みの概要は次のようである。

○6月4日

●「歯の集会」……「むし歯ゼロ児童表彰」「ミニ保健指導」のほかに、保健師や歯科衛生士さんの参加を得て、「歯のクイズコーナー」「歯の紙芝居コーナー」「歯みがき名人コーナー」等のチャレンジタイムを保健委員会や給食委員会が企画運営する。

●歯の勉強会（保健指導）

1年「歯の王様、6歳臼歯」、2年「前歯をしっかりと磨こう」、3年「前歯の内側をきれいに磨こう」、4年「小臼歯をきれいに磨こう」、5年「歯と歯肉をきれいにしよう」、6年「磨き残しのない磨き方を工夫しよう」

●納歯式（13：15～13：30）

- ①歯の塔の前で、保健室に保管していた自分の歯を受け取る。
- ②保健委員長のはじめの言葉
- ③納歯する
- ④校長先生のお話
- ⑤保健副委員長のおわりの言葉

○6月5日～12日……はみがき強化週間

○6月23日～7月1日……そめだしテスト

（「取り組みの概要」は方県小学校の印刷物そのままの表記である。）

この「取り組みの概要」は平成22年度も、ほぼ同じ内容で実施されている。



図7 乳歯が入っている「納歯用ケース」  
（撮影は筆者）



図8 「納歯」の様子  
（撮影は筆者）

上記の歯科保健の様子について、「岐阜新聞」（平成21年6月5日）は方県小学校を取材し、次のように紹介している。

**6月4日は虫歯予防デー。岐阜市安食の方県小学校では歯の集会・勉強会が開かれ、児童らが歯科衛生士から磨き残しのない歯磨きの仕方を教わった。**

集会では、全校児童約130人がクイズや紙芝居などを通して、虫歯にならないための注意点を学習。続いて学年ごとに、歯科衛生士から歯の磨き方の指導を受けた。児童らは、歯垢（しこ）の染め出し液をつけて歯の汚れ具合をチェック。手鏡を見ながら歯ブラシで前歯から奥歯まで一本一本丁寧に磨いていた。

5日には、同校にある歯をかたどった「歯の塔」に、この1年間で抜けた乳歯を納めるセレモニーを行う。

（井上吉博）

**児童、歯の磨き方教わる**  
**岐阜市 方県小で勉強会**

歯の磨き方を学ぶ児童ら＝岐阜市安食、方県小

図9 岐阜市立方県小学校の歯科保健行事についての報道、岐阜新聞（平成21年6月5日）

岐阜市立方県小学校の現地調査において、「歯の塔」を活用し、「納歯式」の保健行事を担当している養護教諭から聞き取り調査を行った。聞き取り調査の視点は「納歯式の保健行事が継続されている要因（背景）」である。聞き取り調査の結果、以下のことがわかった。

- ① 学校規模（児童数）が適正（各学年1クラス）であり、抜け落ちた乳歯の保管の負担が少ない。
- ② 「抜け落ちた乳歯」を納歯することが「伝統」になっている。そのため、特別に指導（アナウンス）しなくても、児童自身が「抜け落ちた乳歯」を保健室に持ってくる。アナウンスは「説明会」と「保健だより」だけで、周知できる。
- ③ 納歯式の準備や運営は「児童保健委員会」の役割で、毎年の恒例となっており、児童保健委員会に対する指導の負担が少ない。
- ④ 6月に実施される「歯と口の健康指導強化月間」が、学校行事として定着しており、「歯の勉強会」（歯科衛生士さんの協力）、「歯の集会」（児童保健委員会の企画運営）と一体となって実施され、「納歯式」もその構成イベントとなっている。
- ⑤ 「むし歯予防指導」「歯みがき指導」は、児童にとっては「自己管理しやすい行動」であり、学級担任にとっては「指導効果が確認しやすい」指導項目であり、学校全体で取り組みやすい保健活動である。
- ⑥ PTA 活動の中に、保健委員会組織があり、歯科保健活動が年間計画として位置づいている。「PTA が『歯みがきカレンダー』を作成する」「親子で行う『染め出しテスト』の実施」「親子料理教室」等が実施されている。
- ⑦ 児童たちも「歯」についての関心が高く、「乳歯が抜け落ちる」と「成長の喜び」を感じながら、うれしそうに保健室に持ってくる姿が多い。
- ⑧ 「歯の塔」「納歯式」が、一連の「歯と口の健康指導」の中に位置づいており、児童の「歯に対する関心」を高める効果をあげている。

養護教諭実践を検討し、その発展のために多くの提案を行っている藤田和也は、学校全体の取り組みとして「保健活動」が展開されるためには、養護教諭の果たす役割が大きいとして、「保健活動の渦をつくる」を提唱している。（藤田和也「養護教諭が担う『教育』とは何か」農文協2008年）

藤田は、養護教諭が保健活動を行う場合、「①子どもの実態をとらえる仕事」「②子どもに働きかける仕事」「③教職員との連携と協働する仕事」「④家庭や地域とつながる仕事」の4つの仕事があることを示し、「……渦を取り巻く四種の性格の異なる仕事がある組織的な取り組みに向けて編み合わされることによってそれらが合力となり、その学校に取組み（保健活動）の渦がつくられていきます。……これら四種の仕事は目的に合わせてうまく編み合わされたときに渦のエネルギー（合力）が生み出されるということです。養護教諭の実践は究極的にはこの渦づくりをめざすことにあると言えます。」（前掲書 p.64～65）

岐阜市立方県小学校の「歯と口の健康指導」の聞き取り調査の結果を、藤田の提案に沿って検討すると、次のように考察できる。

長年にわたり、「歯の口の健康指導」を積み上げられたことにより、「①子どもの実態を捉える仕事」「②子どもに働きかける仕事」が、養護教諭の日常的な仕事として展開されている。

特に、児童保健委員会に対する指導と内容は特筆すべきものであり、子ども達自身が参画する



ことによって、「歯と口の健康指導」「歯の塔」実践を継続させている大きな要因であると考えられる。

また、「③教職員との連携と協働する仕事」についても、学校教育目標に「歯と口の健康指導」が明確に記載され、教職員全体が、指導の重点として指導している様子が伺われる。

「④家庭や地域とつながる仕事」についても、歯科衛生士会との毎年のつながり、PTA 保健委員会組織の独自の活動等が展開されている。

このように、岐阜市立方県小学校における「納歯式」のイベントは、学校の伝統になっており、イベントを実施するための新たな「負担」が最小限で実施されている。更に「子ども達の参画」「教職員の理解と支援」「PTA 等の組織的参加」によって支えられていることが確認された。

これらのことに加えて、「納歯式」のイベントが「単独事業」として行われているのではなく、「歯の集会」「歯の学習」「歯みがき指導」等を含めた「歯と口の健康指導」全体の中で展開されていることは興味深い。「単独事業」であれば、「状況」によっては、事業継続の可否が問われる場合がある。しかし、「歯と口の健康指導」全体が体系化されているならば、「歯の塔」イベントの可否のみが問われるのではなく、「歯と口の健康指導」全体の体系が検討されるのであり、多くの場合は「改善」「充実」の方向に向かうと考えられる。

このことは、「歯の塔」イベントが消滅した小学校のケースについて検討することが必要であるが、推論できる要因であると考えられる。

#### IV まとめ

本研究では、岐阜県内のいくつかの小学校に建造されている「歯の塔」について、その実情を調査すると共に、今日では学校関係者にも引き継がれていない「建造の目的や経過」を解明した。また、研究をすすめる中で、「歯の塔」は現存はするものの多くの小学校では「抜け落ちた乳歯を『歯の塔』に納める保健行事は廃止されている」実態が明らかになった。そこで、「歯の塔」建造から40年間にわたり、「納歯」等の保健行事を継続している岐阜市立方県小学校を調査し、学校保健行事の継続実施の要因を検討した。

- 1 岐阜県内の小学校21校に「歯の塔」が建造されたが、校舎移転や廃校等で3基は失われ、18校に現存する。その内「納歯」等のイベントを継続実施している小学校は5校であった。
- 2 岐阜県内の小学校で、最初に「歯の塔」を建造したのは、岐阜市立本荘小学校であり、1969年であった。当時、同校の学校歯科医であった蒲生勝己氏の提唱に基づくものであった。
- 3 蒲生勝己氏は、小学校の敷地内に「歯の塔」を建造し、児童の抜け落ちた「乳歯等」を納めることにより、歯に感謝する心（併せて、道徳心、歯科保健の学習、郷土愛等）が進められると考えた。蒲生勝己氏は、岐阜県のみならず、学校歯科医の全国大会等でも、この主張を訴えたが、歯の塔の建造は、岐阜県内だけにとどまった。
- 4 蒲生勝己氏の「歯の塔」建造の発想は、愛知県碧南市立新川小学校に建造された「愛歯の塔」にヒントを得ているが、「愛歯の塔」は「納歯」を想定した構造にはなっていない。  
新川小学校と同型のモニュメント「愛歯の塔」が福岡県大木町立木佐木小学校にある。これは新川小学校の「愛歯の塔」に感銘した当時の碧南市長が自らの出身地に寄贈したものである。
- 5 今日、岐阜県内の小学校で、「納歯」等、歯の塔に関連する行事（イベント）を継続している小学校は5校である。岐阜市立方県小学校は5校のうちの1校である。

方県小学校の現地調査や聞き取り調査を実施したところ、「歯の塔」に関連する学校保健行事が継続されている大きな要因（背景）と思われる事情を推定できた。それは以下の5点である。

- (1) 学校保健行事の継続において、担当教員の負担が少ないこと。  
児童の組織や学校職員組織のそれぞれの役割が明確にされている。
- (2) 学校保健行事の意義についての理解が相互に充分になされていること。
- (3) 学校保健行事について、保護者や地域関係者との継続的な連携が築かれていること。
- (4) 単独行事ではなく、いくつかの活動が関連して学校保健行事を構成していること。
- (5) 学校保健行事についての教育的効果が広く確認されていること。

これらは、方県小学校の事情をまとめた要因（背景）であり、学校保健行事が廃止された小学校における要因（背景）とは必ずしも同一ではないと思われるが、今後、学校保健行事を継続的に推進していくためには、検討すべきことと思慮される。

#### 資料文献及び参考文献

- 1) 加藤増夫：歯の塚探訪 医歯薬出版 東京 1988
- 2) 蒲生勝己：「全国の小学校に歯の塔を是非建設しましょう」  
岐阜市学校保健会編：たくましい子らをめざして 20周年記念号 22-24、1972
- 3) 日本学校歯科医会編：「日本学校歯科医会誌 第16号」10-11、1971
- 4) 岐阜市立本荘小学校編：「開校100周年記念誌」101、1973
- 5) 岐阜市立本荘小学校編：「歯の塔パンフレット」1969
- 6) 栃原義人：「碧南市の『愛歯の塔』を訪ねて」  
熊本県歯科医師会編「熊歯会報196号」13-14、1972
- 7) 岐阜新聞 2009年6月5日記事「児童、歯の磨き方教わる」
- 8) 藤田和也：養護教諭の担う『教育』とは何か 農文協出版 東京 2008